

令和4年春 子ども図書館おすすめ本

★幼児におすすめの本★

★『うさぎのくれたバレエシューズ』

あわ なおこ ぶん みなみづかな おこ え こみねしよてん
安房直子/文 南塚直子/絵 小峰書店



バレエきょうしつにかよう女の子は、おどることはすきなのに、なかなかじょうずにおどれません。そんな女の子のもとに、あるときひとつのこづつみがとどいて、中には、さくらいろのバレエシューズが入っていました。さっそくバレエシューズをはいた女の子は、だれかによばれているようなきがして、山へむかいます。すると、山の中にあるさくらの木のふもとには、うさぎがはたらいている「山のくつや」があったのです。

★『はるがきた』

ジーン・ジオン/文 マーガレット・ブロム・グレアム/絵

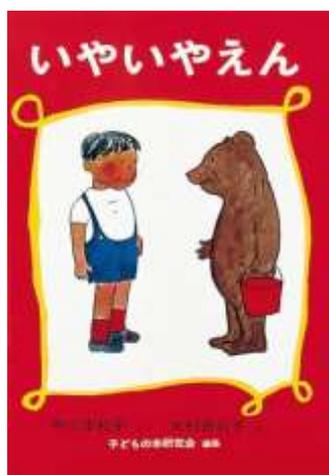
こみやゆう/訳 主婦の友社



さむい冬もおわるころ。もうすぐそこまではるがきているというのに、町の中は灰色ばかり。町の人たちははるがくるのをまつことにしましたが、ひとりの男の子が、はるをまつよりもみんなで町をはるにしようといひだします。町のひとびとはこれにさんせいし、いろいろな色のペンキをもって、草木や花のはるのえをかこうとあつまりました。——はたして、はるはくるのでしょうか。

★『いやいやえん』

なかがわり え こ さく おおむら ゆ り こ え ふくいんかんしよてん
中川李枝子/作 大村百合子/絵 福音館書店



ちゅーりっぷほいくえんのばらぐみには、4
さいのしげるちゃんという ^{おとこ} ^こ男の子がいました。しげるちゃんは ほいくえんのきまりごとを、いちにちで17こもわすれてせんせいにしかられたり、あさごはんのたべかすをかおにひっつけたまま、どろんこあそびをしたりするような子です。

やんちゃなしげるちゃんの、みじかく たのしいおはなしを のぞいてみましょう。

(おなじほいくえんがでてくるおはなしに、『おひさまはらっぱ』(福音館書店) という本 ^{ほん} もあります。)



しょうがっこう ねんせい ほん
★小学校1・2・3年生におすすめの本★

★『ジオジオのたんじょうび』

きしだえりこ さく なかたにちよこ え あかねしよぼう
岸田衿子/作 中谷千代子/絵 あかね書房



らいおんのジオジオは、おかしがだいすき。70さいのたんじょうびに、とくべつ大きくておいしいケーキをちゅうもんしました。ジオジオは食べるのがたのしみです。そんなある日、ジオジオはゆめをみて、あることをおもいつきます。さてどんなたんじょうびになったでしょうか…。

シリーズに『ジオジオのパンやさん』があります。(えほん『ジオジオのかんむり』福音館書店もあり)

★『たんぽぽ (かがくのとも絵本)』

ひらやまかずこ きたむらしろう かんしゅう ふくいんかんしよてん
平山和子/ぶん・え 北村四郎/監修 福音館書店



たんぽぽをしてみてください。たんぽぽには、ひみつがたくさんあります。あたたかくなると、あたらしいはっぱが立ちあがります。一つの花は小さな花のあつまりで、おおくて150こ！その一つ一つにみができて、わたげになって とんでいきます。たんぽぽのねっこはとってもながいですが、どのくらい？ほんものとおなじ大きさの花や、ねっこのえを、ぜひ見てみてください。

★『エルマーのぼうけん』

ルース・クリスマン・ガネット/え わたなべ しげお/やく ふくいんかんしよてん 福音館書店



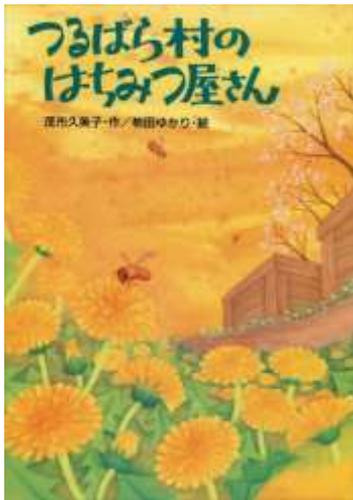
男の子エルマーは、のらねこから、とおくの島にとらわれた、りゅうの子の話をきき、一人でたすけに行きます。リュックにつめたのは、チューインガム、わゴム、ハブラシ…。どうぶつ島でまっていたのは、ライオンや、トラ、サイなどおそろしいどうぶつたち。エルマーは、ちえをつかって、もってきたもので、まかしていきます。エルマーはりゅうの子をたすけられるでしょうか。



★小学校4・5・6年生におすすめの本★

★『つるばら村のはちみつ屋さん』

茂市久美子/作 柿田ゆかり/絵 講談社



つるばら村にある^{ふえが}笛吹き山のふもとには、みつばちを飼っている^か養蜂家のナオシさんが住んでいます。ナオシさんは春にみつばちたちの採ってきたはちみつを分けてもらう代わりに、このみつばちたちの世話をするのが仕事です。つるばら村に^{おとず}訪れる^{あざ}鮮やかな四季の風景と、ナオシさんの出会うちょっと不思議なお客さん。ナオシさんのみつばちたちの生活も描かれている、12の短編集をお楽しみください。

★『ひみつの校庭』

吉野万理子/作 宮尾和孝/絵 学研プラス



^{ようた}葉太の通う小学校では、入学してから卒業するまでの間、自分の「^{たんどう}担当の木」を観察ノートに書くことになっていた。一年生の時に担当の木が^か枯れてしまってから気まづくなって観察をさぼっていた葉太だったが、五年生のある日、ひよんなことから^{つくえ}机の引き出しに自分の担当の植物・ハカラメの葉を見つけたのをきっかけに、再び観察ノートをつけ始めた。

一冊目を書き終えて二冊目を^{もら}貰いに校長室へ行くと、校長先生からごほうびとして秘密の庭へ続く木戸のカギを渡されて……。植物が起こす^{きせき}奇跡とファンタジーの物語。

★『うそつきの天才』

ウルフ・スタルク/作 ひしきあきらこ 菱木晃子/訳 はたこうしろう/絵 小峰書店



少年ウルフは大変嘘をつくのが上手く、学校のテストで落第点を取った時も親のサインを真似てやり過ごすのが当たり前だった。今回も落第点を取ったウルフはいつもの様にやり過ごそうとしていたが、その現場を先生に見られ、遂に悪行がバレてしまった。親に全てを打ち明けなければならなくなったウルフだったが、彼は二度と家には帰らない事を決意して——。スウェーデンの児童文学作家、ウルフ・スタルクの自伝的短編集。

